

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	272500802		
法人名	社会福祉法人天寿園会		
事業所名	天寿園グループホーム		
所在地 (電話番号)	〒039-2742 青森県上北郡七戸町舟場向川久保308 (電 話) 0176-68-4888		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 2月 7日	評価確定日	平成 20年 4月 25日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 10人, 非常勤 人, 常勤換算	10人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火被覆平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(1月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1		名	要介護2 1 名
要介護3	5 名	要介護4 9 名	
要介護5	3 名	要支援2 名	
年齢	平均 87.3 歳	最低 71 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人藤仁会 工藤医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園地帯にあり、ゆったりとした平屋づくりの建物で落ち着いたイメージが感じられる。温泉が出ており誰でも利用できる足湯を設置して近隣から親しまれている。このような余裕のスペースが所々にみられ癒しの空間になっている。スタッフも一人一人にあわせた認知症のケアが教育されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホームの入り口がわかりにくいということであったが、取り外しのできるホーム名のプレートを作り表戸の開閉によって取り付けられるように工夫がしてあった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は全職員が検討し、外部評価に望んでいる。日頃行っていることの振り返りに生かそうと自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	運営推進会議の実施はないが、地域の人々が集うほのぼのの広場を発展的に活用する事で開催できることに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	面会やアンケートを実施し家族の考えること、思うことに向かい合う姿勢があり、改善事項がないか自主的な取り組みを積極的に行っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人独自で「ほのぼの広場」を月2回実施している。30~40名の参加者があり地域に福祉について普及啓発している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした活動を行ってきている。「みんなの為に」の中には利用者、職員、地域等様々な意味を含む独自の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が集まる会議や個人のケアに反映されるようにその時々で話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	以前は介護者教室として委託されていたが、委託事業がなくなった後も地域への貢献、地域での役割を認識し、法人独自で「ほのぼの広場」を月2回実施している。30～40名の参加者があり、地域に福祉について普及啓発している。この場で実際に地域の行事等について会長さん等から情報を収集できている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で検討し、外部評価に望んでいる。日ごろ行っていることの振り返りとしても活かそうと取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ行われていない。	○	「ほのぼの広場」等地域の方々や家族が集まる機会を利用して開催する等、実施に向けた取り組みを期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回程度は町村の担当者と情報交換を行う機会があり、町村の担当者の訪問、面会もあり定期的に話す機会がある。他にもその時々で相談を行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し制度の理解に努めている。現在利用している方はいないが、必要がある場合には対応できる体制となっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士での声の掛け合いや注意できる関係があり、その場で振り返り、配慮できる環境がある。管理者も虐待防止についての意識が高く取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームについて他の高齢者施設と異なる点を家族や本人に理解してもらえるように時間をかけて説明を行い、同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	料金の支払い等でグループホームに来てもらう機会を確保し、面会の際に口頭で報告を行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年家族向けにアンケートを実施して。面会時等に意見を収集した際にも職員会議で伝達し、運営に関すること以外であっても個人の介護計画等に反映できるようにしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配置前から短時間でもいいので顔を出して顔馴染みになれるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のほか、グループホーム内での研修も月1, 2回行われている。外部研修についてはディスカッション形式で伝達されている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を持ちたい、参加したいと考えているが交流の機会があまりない。	○	グループホーム関係者の集まる会議や研修等で提案、働きかけを行って交流の機会が設定できることを期待します。また、他施設見学を検討されてみてはいかがでしょうか。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ入所前からホームに足を運んでもらえるように家族にも協力を働きかけて他利用者、職員とも顔なじみの関係作りが行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の内的な思いを察して、その人に合った対応を行い、利用者の意思で動いてもらえるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日その日、本人が声にした希望や表情を大切に、本人が忘れないうちに対応するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には面会のときに意見を伺い、職員から利用者の日常あった状況について情報を集めてその人らしく暮らすための介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	簡易的な変更はその都度行い、職員にも文章で周知できるようにしている。介護計画は毎月作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の通院や家族の宿泊は希望があれば可能であり要望にこたえる体制を整えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前までの関係を継続している。理事長が医師であるため内科は変更を申し出る傾向にあるが他科についても同様に本人や家族の希望に応えている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医とその都度相談できる関係作りがあり、本人や家族の意見を話せる機会がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その都度確認、指導を行っており、職場内外においても個人情報についての認識がなされている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるものの個人の特徴を大切に、起床時間が遅い方には朝食を別に用意する等、個人にあった時間で暮らしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けをできる範囲で行ってもらい、味や匂いについての感想が会話にある。個人にあった場所や時間にも配慮がされていた。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に応じて一人ひとり異なる時間でも対応している。拒否しやすい方についてもタイミングを合わせて対応できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で個人の生活歴から生じた行動や反応をつかみ、関係する物を実際に見てもらったり、触ってもらったりしている。話を膨らましてそのときの思いや感情を引き出している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時々希望を聞き、決まっていた行事とは別に外出ができている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内研修で徹底してる。特に言葉での制止、本人がやりたいことを丸め込むことがないようにしている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は外部からの安全を考え施錠しているが日中は行っていない。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月自主的に避難訓練を実施している。年間計画で行う定期的な訓練時には地域の住民にも誘導の手伝いを行ってもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量の把握が行われている。また、水分に制限がある方、現病から食事の摂取量に注意しなくてはならない方についても把握できている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり感染症の種類に応じた特徴等についても書類があり、その都度見直しもされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、採光もよく明るい雰囲気がある。所々に座って休める場所があり好きなところで腰を下ろすことができる。広い玄関からのスペースは外の状態が見えるため季節の移り変わりを感じることができる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作ったものや好みのものが部屋の中にあり個人の空間となっていた。		

 は、重点項目。